



ふるさと笠松の「ちょっといい話」No.75



「円城寺町内のゴミ一掃作戦を実施」

ポイ捨てしますか？心も捨てますか？



去る10月27日(日)に、名岐バイパスやJRの線路の下のトンネル付近、神明神社付近、木曾川の堤防などの円城寺町内のゴミを拾いました。

当日は台風一過のすばらしい青空に恵まれました。円城寺の町内の方(百人程)と「道德のまち笠松推進会議」の有志の方10名が参加し、ポイ捨てゴミのない笠松町にしようと1時間にわたって、ゴミ拾いに取り組みました。拾ったゴミは円城寺の集会所に集められましたが、驚いたことにテレビが2台も不法投棄されていました。

宮崎 太道德のまち笠松推進会議会長の話によると、前回のゴミ一掃作戦の時に比べるとゴミの量は半分近くに減ったということです。缶やペットボトル、その他のゴミをポイ捨てしないというモラルが町内外の方に浸透してきたのなら、とてもうれしいことです。美しい場所にはゴミは捨てにくいものです。美しい町笠松を守り続けたいですね。

作業終了後に、これからもポイ捨てをしないことを願って、のぼりを立てました。(右の写真→)



「中学生ボランティアはすばらしい。」

10月6日(日)に行われた笠松町民運動会の時、すばらしい姿を見せてくれた中学生ボランティアの生徒がいたという話が伝わってきました。そこで、早速どんなすばらしい姿だったのかを、インタビューして聞いてきました。

中学生ボランティアのすばらしい姿について、インタビューに応じてくださったのは栗本 久雄さん(写真)です。栗本さんは運動会の当日、スターターの役でした。そして2人の中学生ボランティアを受け持っていました。2人はSさんとS君です。2年生の生徒さんでしたが、はじめてのボランティア活動なので始めは恥ずかしがっていましたが、しばらくするときちんとやれるようになってきました。栗本さんが感心したのは綱引きの競技の時のことです。4つに分かれて競技は行われたため人手が足りなくなり、ストップウォッチをやる人がいません。すると2人は何も言われなくてもストップウォッチを持って、計時していたそうです。自分の係でなくても仕事を見つけて、どうしたらよいかを考える心遣いに、大変驚かされたそうです。

こういう姿の中学生ボランティアがたくさん増えるとうれしいですね。



☆いい言葉は人生を変える。自分愛せば、幸せになれる。有島 武郎(愛は惜しみなく奪う)

私は私のもの、私のただ一つのもの。私は私自身を何者にも代え難く、愛することから始めねばならない。もしも、自分に愛せないところがあるのであれば、それを改善しようと試みてはどうでしょう。失敗してしまったのなら、失敗を繰り返さないようにする。自分を磨く努力をする。そうすれば必ず道は開ける。
※皆さんから「ちょっといい話」を募集しています。笠松中央公民館担当まで電話やFAXなどで連絡をお願いします。



「道徳のまち笠松委員会」及び「推進会議」の紹介

「道徳のまち笠松」を展開するために、委員会と推進会議の2つの組織があります。委員会は主に道徳のまち笠松の在り方や進むべき方向について、年に3回会議を開き、協議しています。推進会議は道徳のまちとしての具体的な活動の工夫や実際の活動を行っています。なお、推進会議は年間5回程度行っています。写真はそれぞれの協議の様子です。



↑ 「道徳のまち笠松委員会」

↑ 浅野 弘光 委員長と広江 正明 町長

道徳のまち笠松推進会議の紹介

道徳のまち笠松推進会議は、次の3つの部会から成り立っています。

- 1 あいさつのまち推進部会
- 2 ささえ合うまち推進部会
- 3 きれいなまち推進部会

それぞれの部会は8名から構成されています。各部会がそれぞれの部会の活動内容を決定していますが、実際の活動への参加は推進会議のメンバー全員が参加・協力しています。

